市民健康開発センター
ハーティ21

健康カルテ

たいじょうほうしん 帯状疱疹ワクチンについて

産業医　北祥男

2025年4月より65歳以上の帯状疱疹ワクチンの定期接種が始まりました。帯状疱疹ウイルスはヘルペスウイルスの1種で、子供の時に水痘（水ぼうそう）にかかった後、神経組織に潜伏し、大人になって免疫能が低下してくると再活性化し帯状疱疹を発症します。帯状疱疹は体幹部など片側に水ぶくれを伴う発疹が出現し、皮膚の症状が治った後に強い痛みが残ることがあります。これを「帯状疱疹後神経痛」と言います。特に70歳以上で発症することが多い病気です。



帯状疱疹ワクチンには組み換えワクチン（乾燥組換え帯状疱疹ワクチン）と弱毒化生ワクチン（乾燥弱毒生水痘ワクチン）の2種類があります。組み換えワクチンは病原性をなくしたウイルスの一部のみを使用した不活化ワクチンで、2ヶ月あけて2回筋肉注射で接種します。接種後の有効率は5年で9割、10年で7割で、神経痛予防効果は89％です。弱毒化生ワクチンはウイルスの病原性をなくし乾燥凍結させたもので、1回の皮下注射で接種します。接種後の有効率は1年で6割、5年で4割ほどで、神経痛予防効果は67％です。妊娠中や免疫不全の人は受けられません。各自治体によって補助率が異なります。

イギリスを拠点とする総合科学ジャーナル「Nature」の2025年4月号で、帯状疱疹ワクチンを受けた人は、7年後に認知症の発症率が20％減少することが報告されました。英国ウェールズの高齢者を対象とした研究で、弱毒生ワクチンを使用しています。組み換えワクチンでも同等以上の効果がある期待されています（弱毒生ワクチンより発症率が17％低いという報告もあり）。特に、女性のほうが認知症予防効果が高いとされています。

	弱毒化生ワクチン	組み換えワクチン（不活化）
回数	1回（皮下接種）	2回（筋肉内に接種）
条件	病気や治療によって免疫の低下している方は接種できません	免疫の状態にかかわらず接種可能
予防効果	接種後1年6割程度、接種後5年4割程度	接種後1年9割程度、接種後5年9割程度 接種後10年7割程度
料金	4,000円（尼崎市）	11,000円×2回（尼崎市）

尼崎市の
帯状疱疹ワクチン
接種について